



2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月6日

上場会社名 関西ペイント株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4613 URL <https://www.kansai.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 毛利 訓士
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員 経営推進部門長 (氏名) 高原 茂季 TEL 06-6203-5531
 四半期報告書提出予定日 2021年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	97,767	25.2	8,730	126.7	11,611	123.2	5,346	148.6
2021年3月期第1四半期	78,088	△25.2	3,851	△53.0	5,202	△45.2	2,150	△48.3

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 15,260百万円(－%) 2021年3月期第1四半期 △5,152百万円(－%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	20.80	19.35
2021年3月期第1四半期	8.37	7.76

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	615,244	346,439	48.0
2021年3月期	606,580	338,859	47.3

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 295,353百万円 2021年3月期 286,799百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2022年3月期	—				
2022年3月期(予想)		15.00	—	15.00	30.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	400,000	9.7	38,000	21.7	44,000	22.6	26,000	29.8	101.17

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動):無

(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用:有

(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4)発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年3月期1Q	272,623,270株	2021年3月期	272,623,270株
2022年3月期1Q	15,624,301株	2021年3月期	15,603,530株
2022年3月期1Q	257,009,285株	2021年3月期1Q	257,055,939株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直しが続きました。そのような状況下、中国においては、景気は緩やかに回復しました。米国、欧州、その他のアジア新興国及びアフリカにおいては、景気は依然として厳しい状況で推移しましたが、一部市場を除き、持ち直しや下げ止まりの動きが見られました。わが国経済は、設備投資や生産に持ち直しが見られるものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済活動の制限により、個人消費を中心に低迷するなど、厳しい状況で推移しました。

当社グループの当第1四半期連結累計期間における売上高は977億67百万円（前年同期比25.2%増）となりました。売上高の大幅な増加を受け、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は、それぞれ87億300百万円（前年同期比126.7%増）、116億11百万円（前年同期比123.2%増）、53億46百万円（前年同期比148.6%増）となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりであります。

《日本》

自動車分野は、新車用分野及び自動車部品向け塗料では自動車生産台数が前年を上回り、売上は増加しました。工業分野では、産業機械向け塗料などが堅調に推移し、売上は前年を上回りました。建築分野では、家庭用塗料の需要の低下により、売上は前年を下回りました。船舶分野では、修繕船向けが堅調に推移し、売上は前年を上回りました。自動車分野（補修用）及び防食分野では、国内市況の回復を受け、売上は前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は343億70百万円（前年同期比10.3%増）、経常利益は40億73百万円（前年同期比60.1%増）となりました。

《インド》

自動車分野及び建築分野では、新型コロナウイルス感染症第2波による経済活動低迷の影響を受けたものの、前年が年初における新型コロナウイルス感染症拡大を抑止するためのロックダウンの影響を大きく受けていたこともあり、売上は前年を大幅に上回り、当セグメント全体の売上も前年を大幅に上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は211億37百万円（前年同期比130.8%増）、経常利益は22億32百万円（前年同期比275.0%増）となりました。

《欧州》

トルコでは、自動車生産台数の減少により自動車分野での売上は前年を下回りましたが、工業用分野において堅調な需要に支えられ、売上は前年を上回りました。その他欧州各国においても、工業用分野及び建築分野を中心に堅調な需要に支えられ売上は前年を上回り、欧州全体の売上は前年を上回りました。売上高が増加した影響に加え、持分法投資利益が増加したことなどにより、利益は大幅に増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は180億76百万円（前年同期比12.4%増）、経常利益は15億60百万円（前年同期比197.4%増）となりました。

《アジア》

中国においては、自動車生産台数の回復を受け、自動車分野での売上は前年を上回りました。工業分野では産業機械向け塗料が堅調に推移し、売上は前年を上回りました。これらの結果、中国全体での売上は前年を上回りました。インドネシアにおいては、自動車生産台数が前年を下回り、売上は前年を下回りました。タイ及びマレーシアにおいては、自動車生産台数の回復を受け、売上は前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は149億98百万円（前年同期比16.8%増）、経常利益は27億5百万円（前年同期比120.8%増）となりました。

《アフリカ》

南アフリカ及び近隣諸国の経済は新型コロナウイルス感染症拡大により厳しい状況が続いたものの、建築分野の需要を取り込み、南アフリカ地域の売上は伸長しました。東アフリカ地域においても、建築分野において堅調な需要を取り込み売上は伸長し、アフリカ全体の売上は前年を上回りました。また、前年度より不採算事業の整理及び固定費の削減を進めた結果、収益性が改善されました。

これらの結果、当セグメントの売上高は76億86百万円（前年同期比3.6%増）、経常利益は2億62百万円（前年同期比 - %）となりました。

《その他》

北米では、自動車部品向け塗料などの拡販に努めました結果、売上は前年を上回りました。

これらの結果、当セグメントの売上高は14億97百万円（前年同期比3.9%増）、経常利益は7億77百万円（前年同期比116.0%増）となりました。

なお、前連結会計年度まで工業分野に区分しておりました自動車部品向け塗料につきましては、当連結会計年度より自動車分野に区分しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、3,022億2百万円（前連結会計年度末比17億30百万円増）となりました。流動資産の増加は、現金及び預金などが減少したものの、原材料及び貯蔵品などが増加したことによるものであります。

② 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、3,130億41百万円（前連結会計年度末比69億33百万円増）となりました。固定資産の増加は、主に投資有価証券などが増加したことによるものであります。

③ 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、2,167億28百万円（前連結会計年度末比603億71百万円増）となりました。流動負債の増加は、主に1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債などが増加したことによるものであります。

④ 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、520億75百万円（前連結会計年度末比592億87百万円減）となりました。固定負債の減少は、主に転換社債型新株予約権付社債などが減少したことによるものであります。

⑤ 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,464億39百万円（前連結会計年度末比75億80百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では、2021年5月12日発表の2022年3月期通期連結業績予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	114,292	107,540
受取手形及び売掛金	105,129	107,157
有価証券	10,154	5,816
商品及び製品	35,782	37,828
仕掛品	5,538	6,171
原材料及び貯蔵品	24,346	28,928
その他	8,498	12,521
貸倒引当金	△3,269	△3,761
流動資産合計	300,471	302,202
固定資産		
有形固定資産	127,220	129,641
無形固定資産		
のれん	29,882	29,968
その他	21,452	21,644
無形固定資産合計	51,335	51,612
投資その他の資産		
投資有価証券	86,942	90,542
その他	45,213	45,702
貸倒引当金	△4,602	△4,457
投資その他の資産合計	127,552	131,787
固定資産合計	306,108	313,041
資産合計	606,580	615,244

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	63,808	64,394
短期借入金	6,013	7,869
1年内返済予定の長期借入金	46,643	43,029
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	-	60,048
未払法人税等	7,471	4,659
賞与引当金	4,749	2,859
その他	27,670	33,868
流動負債合計	156,357	216,728
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	60,060	-
長期借入金	7,751	6,674
退職給付に係る負債	8,598	8,738
その他	34,952	36,663
固定負債合計	111,363	52,075
負債合計	267,720	268,804
純資産の部		
株主資本		
資本金	25,658	25,658
資本剰余金	21,081	21,081
利益剰余金	260,799	262,146
自己株式	△25,844	△25,902
株主資本合計	281,695	282,984
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,400	36,546
繰延ヘッジ損益	△1,003	△558
為替換算調整勘定	△31,130	△27,384
退職給付に係る調整累計額	3,838	3,765
その他の包括利益累計額合計	5,104	12,368
非支配株主持分	52,059	51,086
純資産合計	338,859	346,439
負債純資産合計	606,580	615,244

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	78,088	97,767
売上原価	52,736	66,102
売上総利益	25,351	31,665
販売費及び一般管理費	21,499	22,934
営業利益	3,851	8,730
営業外収益		
受取利息	141	116
受取配当金	833	777
持分法による投資利益	776	1,760
為替差益	-	142
雑収入	386	740
営業外収益合計	2,138	3,537
営業外費用		
支払利息	394	363
棚卸資産廃棄損	61	134
為替差損	170	-
雑支出	161	157
営業外費用合計	788	655
経常利益	5,202	11,611
特別利益		
固定資産売却益	9	30
投資有価証券売却益	5	365
子会社清算益	-	13
受取保険金	-	298
特別利益合計	15	708
特別損失		
固定資産除売却損	6	34
早期割増退職金	-	17
特別損失合計	6	52
税金等調整前四半期純利益	5,211	12,267
法人税等	2,287	5,128
四半期純利益	2,924	7,139
非支配株主に帰属する四半期純利益	774	1,793
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,150	5,346

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益	2,924	7,139
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,787	2,385
繰延ヘッジ損益	△1,998	385
為替換算調整勘定	△8,306	3,364
退職給付に係る調整額	109	△73
持分法適用会社に対する持分相当額	△669	2,057
その他の包括利益合計	△8,077	8,120
四半期包括利益	△5,152	15,260
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,295	12,610
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,857	2,649

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、一部の有償支給取引について、当連結会計年度より金融取引として棚卸資産を引き続き認識するとともに、有償支給先に残存する支給品の期末棚卸高について金融負債を認識しております。また、売上りべと等の顧客に支払われる対価については、従来、販売費及び一般管理費として処理する方法によっていましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、当該会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	欧州	アジア	アフリカ	計				
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	31,154	9,157	16,075	12,842	7,416	76,646	1,441	78,088	-	78,088
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	1,901	6	38	719	32	2,698	-	2,698	△2,698	-
計	33,056	9,163	16,113	13,562	7,449	79,345	1,441	80,786	△2,698	78,088
セグメント利益または損失 (△)	2,544	595	524	1,225	△47	4,842	359	5,202	-	5,202

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、アメリカ・メキシコ等の現地法人の事業活動を含んでおります。
2. セグメント利益または損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。
3. セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。
4. 日本以外の各セグメントに属する主な国または地域
 インド……インド、バングラデシュ、ネパール等
 欧州……スロベニア、トルコ、オーストリア等
 アジア……インドネシア、タイ、中国等
 アフリカ……南アフリカ、ウガンダ、ジンバブエ等

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	日本	インド	欧州	アジア	アフリカ	計				
売上高										
(1) 外部顧客への売上高	34,370	21,137	18,076	14,998	7,686	96,269	1,497	97,767	-	97,767
(2) セグメント間の内部 売上高または振替高	2,710	22	55	719	84	3,592	-	3,592	△3,592	-
計	37,080	21,160	18,131	15,717	7,770	99,861	1,497	101,359	△3,592	97,767
セグメント利益	4,073	2,232	1,560	2,705	262	10,834	777	11,611	-	11,611

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、アメリカ・メキシコ等の現地法人の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

4. 日本以外の各セグメントに属する主な国または地域
 インド……インド、バングラデシュ、ネパール等
 欧州……スロベニア、トルコ、オーストリア等
 アジア……インドネシア、タイ、中国等
 アフリカ……南アフリカ、ウガンダ、ジンバブエ等

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更」に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

当該変更が報告セグメントの売上高及びセグメント利益に与える影響は軽微であります。